

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100190
法人名	特定非営利活動法人 いわのや
事業所名	グループホーム ふれんど
所在地	群馬県安中市大谷1088-2 (電話) 027-382-9008

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年7月9日

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤3専任1兼務4人,非常勤 5人,常勤換算	4.8人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	2 階建て 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	61 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	わかばクリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年の開所時より入所されている利用者の方が5名生活をしている。年月がたてば身体状況は重度になるが利用者の方が元気に作業をしている。生活の中に動きが取り入れられ、自然とリハビリになっていることが伺える。職員の「作業をお願いします」発想は利用者の生きがいと健康を作り出している。管理者の家族はもともと地域の住民であり、地域との関係が築かれている。施設に気軽に地域の人が遊びに来る事が出来る工夫があり、運営推進会議でも地域への協力を求めやすいシステムづくりが培われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスとしての理念では運営推進会議や職員間での見直しなどはされたが、改めてはいない。地域との係りはすでに出来ている。現状に即した介護計画の見直しはすでに検討され改善されている。重度化や終末期に向けた方針の共有では継続検討されていて、現在話し合いを進めている利用者がある。栄養摂取や水分確保の支援では、すぐに職員間で話し合われ、チェック表が作成された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員に自己評価を知ってもらい、それぞれ自分の意見を書いてもらっている。職員から出た意見を管理者が取りまとめ仕上げていく。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月ごとに定期的開催されている。地域より区長、区長代理、児童民生委員、利用者、利用者家族が参加している。昨年火災が近所にあったが、すぐに近隣住民が駆けつけてくれ心配をしてくれた。緊急事態が発生した時にすぐに避難できるように、放送設備の設置が話し合われた。運営推進会議では継続案件となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者は家族からの意見を吸い上げる努力をしている。運営推進会議には全員の家族に参加を呼びかけている。沢山の家族から意見を聞き、また話しやすい雰囲気を作っている。意見箱が設置され、責任者も明記されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議の報告や更新申請など管理者は役所に出掛け情報を交換している。またメールなどでも情報のやり取りを行っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中でかけがえの無い存在であるとし、利用者はすでに地域での活動に参加している。現在の理念を管理者、職員で検討したが、地域での生活者である視点はゆるがないとして、理念の変更はしていない。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は会議などで話し合い理念の共有を図っている。また印刷して常に意識をする努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板などが回ってきて地域のニュースなどを利用者は知る事ができる。老人会の人たちとの交流なども施設で行われている。地域の文化祭にも参加している。草むしり、ごみ拾いなど地域に協力もしている。利用者は地域の一員として生活をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価を会議で取り上げ、職員から意見を吸い上げている。職員も自己評価の意義を理解している。今回の自己評価は吸い上げた意見を参考に管理者が取りまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催されている。区長、区長代理、民生委員、市職員が地域から参加している。施設からは管理者、利用者、利用者家族が参加して行われている。近所にぼやがありすぐに地域の人が駆けつけた。運営推進会議に議題として取り上げられ、防災放送が施設に知らされるような手段が検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や施設状況の説明などを管理者は市に出向いて情報交換を行っている。また介護保険申請代行などで市に出掛けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話などで健康状態などを知らせている。月に一度「ふれんど便り」を郵送している。また写メールなどを用いて、家族にその時の利用者の様子を知らせている。健康面・会計面での報告もされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族が意見を言いやすいような雰囲気を作る努力をしている。意見箱の設置も行っている。また職員には家族から何でも話してもらるように指導している。運営推進会議には全家族に連絡をして多くの家族の参加を呼びかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は無かった。新入職員に対しては利用者にも馴染んでもらうまで経験職員と一緒に仕事をしてもらう。日勤・夜勤とも管理者が見極めてから一人で仕事をってもらう。利用者のダメージを少なくする努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員を研修に参加させたいと思っている。認知症の研修、実践者研修など職員の経験や希望などを取り入れている。研修の報告は職員会議で行い回覧もされている。職員は内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。西毛ブロック研修にも参加している。地域の施設の人とも交流を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族で施設を見てもらい雰囲気を感じてもらい納得してもらって入所に結び付けている。不安の強い人にはお試し期間を設けたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や生活の知恵など職員は教えられる事が多く利用者から学んでいる。体力は衰えても職員がカバーしながら持てる力を発揮してもらおう努力をしている。日々の生活を利用者と職員は共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は会話を通して利用者の意向の確認を行っている。言葉が出にくい人からは表情や動きなどからその人の意向を汲み取っている。家族から情報をもらう事もしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーは家族の意向の確認を取っている。職員はケース会議などで一人ひとりの意向を反映した介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月と随時の介護計画の見直しが行われている。また毎月のモニタリングにより計画の検討などが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、利用者の働いていた職場見学、買い物支援、自宅への一時帰宅支援など多機能性を生かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関からは月に一度の往診支援がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者、職員は重度になった場合でも家族の希望があればグループホームでの生活を支援したいと考えている。現在、職員会議で検討されている。しかし指針作成までには至っていない。	○	重度化した場合の家族との話し合いがされているが、検討課題であり共有がされていない。全職員で共有できる指針作成の検討をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者への声掛けなどに配慮している。「ふれんど通信」掲載はイニシャルで対応している。記録物は事務所に保管されている。また職員とは誓約書が取り交わされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな食事の時間が決められているが一人ひとりのペースを大切にした支援が行われている。それぞれが新聞を持ってきたり、お化粧をしたり、自分のしたい事をしながら過ごしている。夜にはノンアルコールの支援を受けている人もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は野菜の下ごしらえから料理に参加している。メニューは利用者の好みを取り入れられている。簡単な料理なら利用者は見守られながら調理している。下膳、片付けなど役割が用意されている。職員は利用者を見守っている。検食者が居るが一緒に食べては居ない。	○	食事は共通の話題が作りやすい。職員が見守りでは無く一緒に食べる事により、おいしさ、味付け、料理法などの共通の話題が生まれる。今後は一緒に食事が取れるような工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合できめてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に3回の入浴日がある。午前から午後まで入浴を行っている。ほとんどの人が入浴日の入浴をしている。清拭、シャワー浴などの対応もしている。	○	決められた曜日や時間ではなく、利用者の希望する時間に入浴できる体勢を整えてもらえる事を希望する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活暦などを考え作業をお願いしている。草木の水くれ、野菜の手入れ、米ときなど多くの作業がある。楽しみごとは月に一度の外出、外出、飲み会、カラオケなど、また気晴らしでは、地域の人の慰問、踊り、映画などが用意されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然に恵まれた地域にあり、外出の機会は多く設定できている。利用者は散歩、草むしり、野菜の世話、猫の世話など外に出て外気に触れる事が出来る。生活の中で外出が日常的に取り入れられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員ともに鍵をかける事の弊害を理解している。鍵を掛けないケアを実践している。職員は利用者への見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災チェックを行っている。また年に2回の避難訓練を自主訓練で行っている。運営推進会議などにも議題として取り上げ協力依頼を行っている。隣家にはすでに協力依頼がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の目安がわかりやすく記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはリスが飼われている。また大きな竹に七夕飾りが飾られている。一人ひとりの思いが書き込まれ季節感と和やかさを感じさせる。利用者はテーブルを囲み野菜の下ごしらえ作業を行っていた。テレビ、カラオケセット、作品なども飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は箆笥、テレビ、人形、ベッド、写真、花などが飾られている。排泄の困難な人にはポータブルトイレもあり一人ひとりのレベルに合わせた居室になっている。		